式亭三馬年譜稿（二）

―文化五年以降―

吉丸雄哉

凡例

著者・画工・版元の名前は通称を採った。原本の記述どおりではない。人物の代目は生没年でおおよそわかるものなので、記していない（歌川豊国など）。題名とその読みは基本的に原本外題から採った。よって題名とその読みが『国書総目録』や「日本古典籍総合目録データベース」と齟齬することがある。文化三年以降の草双紙の冊数は、合巻体の冊数である。黄表紙形式（分冊、冊ごとに表紙）が存在する場合でも、そのことは特記していない。再板は数が多いため、記述は最低限にとどめている。文化七年と八年の記録として三馬自筆の日記『式亭雑記』（大東急記念文庫所蔵、原題「雑記」）が存在するが、文化七年と八年の項目では重要箇所を記すにとどめた。文化七・八年の詳細が知りたいものは『式亭雑記』を参照のこと。

本田康雄『式亭三馬の文芸』（笠間書院、昭和48）と棚橋正博『式亭三馬』（ぺりかん社、平成6）は三馬研究の基本書籍であり、本年譜稿はこれを参照・検証・増補することで作成した。

文化五年、一八〇八、戊辰、三十三歳

○正月、左記の合巻を刊行。

『谷汲観音利益仇討（たにくみくはんおんりやくのあだうち）』難有孝行娘（ありがたきかうこむすめ）』（三巻一冊、勝川春亭画、森屋治兵衛板）

『島川太平増補仇討（しまがはたへいぞうほあたうち）』御堂詣未刻太鼓（みだうまゐりおやつのたいこ）』（六巻二冊、歌川豊広画、西宮新六板）

『蟒蛇（うはばみ）於長嫐草紙（おちやうはなりさうし）』（七巻二冊、歌川国貞画、浜松屋幸助板）

『金花猫姿化生屋敷（ねこまたばけしやうやしき）』復讐両朕塚（かたきうちふたまたづか）』（六巻二冊、勝川春亭画、岩戸屋喜三郎板）

『金銅名犬正宗名刀（こんどうのめいけんまさむねのめいとう）』敵討宿六始（かたきうちやどろくのはじまり）』（十巻二冊、歌川豊国画、西宮新六板）

『天狗利生（てんぐりしよう）』鬼児島名誉仇討（おにがこじまめいよのあだうち）』（八巻二冊、歌川国貞画、西宮新六板）

『大津土産（おおつみやげ）』吃又平名画助刃（どものまたへいめいがのすけだち）』（八巻二冊、歌川国貞画、西村源六・西宮新六板）

『山本勝山髷三浦兵庫結（やまもとのかつやままげみうらのひようごむすび）』両禿対仇討（ふたりかぶろついのあだうち）』（十二巻三冊、歌川国貞画、鶴屋金助・鶴屋喜右衛門板）

『三国伝来塙壁之外（さんごくでんらいかきねのそと）』玉藻前龍宮物語（たまもまえりゆぐうものがたり）』（三巻一冊、歌川国貞画、

近江屋権九郎板）

『関戸矢二郎牛子魔駄六（せきどやじろううしこまだろく）　力競稚敵討（ちからくらべおさなかたきうち）』（八巻二冊、勝川春亭画、近江屋権九郎板）

○以上の合巻のうち、『敵討宿六始』『鬼児島名誉仇討』『御堂詣未刻太鼓』を『復讐奇譚三部合巻　おとぎものがたり』として銘打って西宮新六から半紙本合巻（二十四巻六冊）を売り出したが、「読本まがひの趣向、大きにはづれたり」（『式亭雑記』）と売れ行きは悪かった。

○滑稽本『浪花土産　初物語』（一冊、勝川春亭画、駿河屋平兵衛板）四月成稿、五月刊行。

○正月刊、古今亭三鳥『新作落咄　笑顔始（えがおはじめ）』を閲、および序。『笑顔始』は文化三年刊『諢話江戸嬉笑』に、三馬の序二丁と本文十一丁（十五話）と挿絵一図を加えて新刻したもの。

○五月刊、『如是因縁（にょぜいんねん）』（鯛糸依編、一冊、蔦屋重三郎板）に追善文と狂歌一首

○『新修日本小説年表』や『蟒蛇於長嫩草紙』の上冊広告に、『おしゆん伝兵衛』有田唄お猴仇討（ありだうたさるのあだうち）』（六冊、歌川国真画）が載るが、未刊に終わったと思われる。もっとも『戯作六家撰』には三馬の詠んだ狂歌として「あろかいなお猿に賛なあろかいなとんだ趣向が有田歌右衛門」が収められ、有田唄への関心はあったようである。

○『宿直（とのい）物語』が『存採叢書沿聞録』や文化五年の上総屋忠助の蔵板目録にその名前が見えるが未刊に終わったと思われる。

○入江智英編『秘籍江戸文学選』5（日輪閣、昭和51）が、艶本『幾夜物語』（五冊）の刊行年が文化五年で、編者「元来庵介米」が三馬だと推測する。

○棚橋正博「『浮世風呂』について」（「江戸文学」20、ぺりかん社、平成11・6）により、文化六年正月の刊行とされてきた『浮世風呂』前編（滑稽本、二巻二冊、北川美丸画、西村源六・石渡平八板）が「外題作者画工書肆名目集」（慶応義塾図書館蔵、『国文学論叢西鶴』）から文化五年十二月二十日より売りだされたと紹介された。

文化六年、一八〇九、己巳、三十四歳

○正月、左記の合巻刊行。

『明石物語（あかしものがたり）』（八巻二冊、勝川春亭画、森屋治兵衛板）

『吾嬬織角觝大全（あずまおりすもうたいぜん）』（八巻二冊、歌川国貞画、西宮新六板）

『金神長五郎忠孝話（こんじんちょうごろうちゅうこうばなし）』（十二巻三冊、歌川国貞画、西村源六板）

『漆雛即滅（しちなんそくめつ）七福譚（しちふくものがたり）』（四巻一冊、歌川豊国画、鶴屋金助板）

『玉藻前三国伝記（たまものまえさんごくでんき）』（三巻一冊、勝川春亭画、森屋治兵衛板）

『丹波与作自然書三吉（たんばのよさくじねんじょのさんきち）　忠孝振分道中雙六（ちゅうこうわけどうちゅうすごろく）』（八巻二冊、勝川春亭・歌川国満画、鶴屋金助板）

『無根草夢談（ねなしぐさゆめものがたり）』（三巻一冊、勝川春亭画、近江屋権九郎板）

『腹鼓狸忠信（はらつづみだぬきただのぶ）』（三巻一冊、北川美丸画、鶴屋金助板）

＊『腹鼓狸忠信』の板元は、文化六年刊の『鷺娘之来由（さぎむすめのらいゆ）』（十返舎一九作、勝川春亭画、鶴屋金助板）の広告に収録されたことに拠っ

た。『無根草夢談』と『腹鼓狸忠信』は黄表紙形式もあった。
○正月、『浮世風呂』前編（滑稽本、二巻二冊、北川美丸画、西村源六・石渡平八板）が刊行されたとされるが、実際は前年の十二月二十日（棚橋「『浮世風呂』について」）。
○正月元日、大火により『浮世風呂』前編初版本の板木焼失。文化七年春までに、『浮世風呂』前編の再板本刊行（棚橋「『浮世風呂』について」）。
○正月、『鼻毛はながし百銅はみちかし　打諢譚』（滑稽本、一冊、歌川豊国画、山城屋藤右衛門板）刊行。『国書総目録』は、合巻に分類し、『日本一癡鑑』（歌川豊国画、和泉屋市兵衛板、享和元年刊）の改題本とするが、全くの異本。分類も滑稽本が妥当である。
○八月二十八日、朝寝坊夢羅久が柳橋大のし富八楼にて初めて行った咄の会に山東京伝や六樹園らと出席し、狂文、狂歌を贈った（『落話会刷画帖』）。この日の体験は『田舎芝居忠臣蔵』初編に利用されることになった。「これは文化六とせといふとしの八月なかば両国柳橋なる大のしのたかどのにて。おとしはなしの会ありける日京伝豊国京山などのうしたちとともに。おとしはなしきかばやとてゆきけるをりからたはふれにつゞりてむらくぬしにおくりつ談洲楼焉馬のうしその席につらなりて。この披講をばものし給ひき」（『田舎芝居忠臣蔵』初編、上巻、附言七丁表より）。
○『弁天利生（べんてんりしょう）　建久女敵討』（合巻、九巻三冊、与鳳亭梧井作、盈斎北岱画、上総屋吉左衛門・前川六左衛門・石渡利助ほか五軒板）に「式亭三馬閲」とし序文（文化六年正月）も寄せる。
○九月末に、文化九年刊行の『書習廓文章』（合巻、五巻一冊、徳亭三孝作、歌川国次画、西宮新六板）のために「徳亭三孝の戯号を贈る詞」という序を門人徳亭三孝のもとに送る。
○正月刊行の『花鳥風月仇討話』（合巻、六巻二冊、益亭三友作、歌川文治画、西宮新六板）に「乍憚口上」として門人益亭三友の紹介文を寄せる。

文化七年、一八一〇、庚午、三十五歳

○正月、左記の合巻刊行。
『一対男時花歌川』（十二巻二冊、歌川豊国・歌川豊広画、伊賀屋勘右衛門板）
『鶉権兵衛俠客話』（三巻一冊、菊川英山画、鶴屋喜右衛門板）
『さるほどにこれはまた竹生しま利益の仇討　（さるほどにこれはまたちくぶしまりやくのあだうち）　歌祭文阿三漾平』（六巻二冊、歌川国貞画、森屋治兵衛板）
『ひだり甚五郎　腕雕一心命』（三巻一冊、歌川国満画、鶴屋金助板）
『善悪両面（ぜんあくりょうめん）　於竹大日忠孝鏡』（七巻二冊、勝川春亭画、鶴屋喜右衛門板）
『親為孝太郎次第』（四巻一冊、北川美丸画、西宮新六板）
『俠客荒金契情瓢象（おとこだてはあらかねけいせいはひさごがた）　冠辞筑紫不知火』（八巻二冊、歌川豊国画、鶴屋喜右衛門板）
『却説浮世之助話』（六巻二冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）
『婚礼三組（こんれいみつぐみ）　昔形福寿盃』（五巻一冊、北川美丸画、西宮新六板）

『松王丸明月姫』（まつおうまる めいげつひめ）昔語兵庫之築島（むかしがたりひょうごのつきじま）』（六巻一冊、小川美丸画、鶴屋金助板）

＊『歌祭文阿三藻平（うたさいもんあさんもへい）』の国立国会図書館本題簽は鶴屋金助を板元とするが、森屋治兵衛板が先に刊行されたと思われる。『昔語兵庫之築島』の最終丁に「北川姓改十八歳小川美丸画」。『却説浮世之助話（さてもそののちよのすけばなし）』は天保十年の蔵版目録のある永楽屋東四郎板がある。

○正月、『流転数回』阿古義物語（あこぎものがたり）』（読本、四巻五冊、歌川豊国・歌川国貞画、鶴屋喜右衛門・鶴屋金助板）刊行。

完成に至るまでの原稿の進捗を記す。柳斎主人の佐原の家で、六月中浣までに『阿古義物語』の開場から第三回までの稿を仕上げた（『阿古義物語』序、述意）。その後は、板元鶴屋喜右衛門と鶴屋金助の「伏稟」によると、「巳の八月朔日より二之巻に取りかゝり、又々延引仕り候て、去る巳の月極月朔日より當午の正月七日迄に、第三第四之巻だら〳〵急に出来仕り候に付、早速取急ぎ上木仕り、當春之売出しに相成申し候。然れ共豊国主人甚だ繁多にて、なか〳〵早急の間に合かぬべき旨にて、無拠断りに付き、作者相談の上名代の画工、即ち豊国門人歌川国貞主人に相たのみ候て、首尾能出版仕り候」。

○正月、『七癖上戸（ななくせじょうご）』（滑稽本、三巻三冊、歌川国貞画、西村源六・西宮平兵衛・西宮弥兵衛板）刊行。

○『早替胸（はやがわりむね）のからくり』（滑稽本、一巻一冊、歌川豊国画、西村源六・西宮新六・西宮太助板）刊行。文化六年八月の成稿。

○文化七年の六月より、文化八年の五月十三日までの日記。

○春三ヶ月程腫気にて大病、九月下旬より痛風にて大病、行歩不叶、漸々未正月に至り全快す（『式亭雑記』）。

○『客者評判記』自跋によると「金竜山麓の別業に二箇月余り居続の間」とある。

○十二月四日に、戯友の万象亭が死去。森羅万象の名が俳諧歌の判者の七珍万宝に譲られた次第を『田舎芝居忠臣蔵』初編の自序に記す。

○十二月十九日、本町二丁目に転宅、仙方延寿丹の売薬店を開く（『江戸水福話』『式亭雑記』）。

○『新修日本小説年表』では「恋山崎与一兵衛物語（こいやまさきよいちべえものがたり）」（三冊、北川美丸画）、「毬歌娘形気（てまりうたむかしかたぎ）」（五冊、歌川豊国画）が刊行されたとするが未刊に終わったと考えられる。

○正月、『浮世風呂』二編（滑稽本、二巻二冊、画工不明（北川美丸か）、西村源六・石渡利助・石渡平八板）刊行。文化六年九月重陽の前後五日の脱稿。なお、『浮世風呂』前編の板木が文化六年の正月に火災のため焼失したことが記してある。

○三月に刊行された神田側の狂歌集『千もとの華』（千首楼屋職堅丸編、鈍々亭和樽蔵板）に狂歌一首入集。「よしの山雲か雪かとうたかひをいふは六田からみるさくら花　式亭三馬」。三馬の名前の前に千秋連の印が捺されることは、三馬と千秋連がかつて深い関係があったことを表わす。

文化八年、一八一一、辛未、三十六歳

○正月、左記の合巻刊行。
『凧雲井物語』（七巻二冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）
『堪忍五郎稚講釈』（五巻一冊、小川美丸画、鶴屋金助板）
『其写絵劇俤』（七巻一冊、歌川豊国画、伊賀屋勘右衛門板）
『艶競二人忠兵衛』（六巻一冊、歌川国貞画、西宮新六板）
『腹之内戯作種本』（三巻一冊、小川美丸画、鶴屋喜右衛門板）
『昔語釜箇淵』（七巻二冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）

＊『艶競二人忠兵衛』の初板本と思われる専修大学向井文庫本の外題「梅川忠兵衛　一名はでくらべふたり忠兵衛」を正式な題名とすべきか。文化八年になると、芝居種が増加し、似顔が利用されるようになる。三馬合巻の擦り付けの役者の題簽もこの年より始まる。

○正月、『客者評判記』（三巻三冊、歌川国貞画、塩屋長兵衛・鶴屋喜右衛門・鶴屋金助板）刊行。上巻、八文舎自笑・三馬序。下巻、三馬・古今亭三鳥序。楽亭馬笑・徳亭三孝跋。文政六年序版が存在。

○三月、古写本を求め書き写し、頭注を書き足し、『身の昔』と題する。見返しに「文化八年未三月求得たる古写本倉卒に参考したればいまた備らす追て委しうすへし　式亭（式亭印）」とある。『身の昔』の三馬自筆本は早稲田大学附属図書館蔵。その写本が東京大学総合図書館本。内容は「船路の記」「閨の記」「矯屋の記」からなる遊里文芸。

○三月十二日、両国橋向尾上町中村屋平吉方で書画会を開く。京伝、京山に前日より世話役を頼む（『式亭雑記』）。

○十一月、『狂言田舎操』（二巻四冊、喜多川歌麿（恋川行町）・歌川国直画、三木屋喜左衛門・西村源六・鶴屋金助板）を門人楽亭馬笑と合作で刊行。

○三馬贔屓の沢村源之助が四代目沢村宗十郎を襲名。名披露目の浮世絵（歌川豊国画、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号120-0017）に狂歌賛一首。

○顔見世番付を読む沢村宗十郎の浮世絵（歌川豊国画、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号014-0005）に狂歌賛一首。

○十二月上旬、『田舎芝居忠臣蔵』初編脱稿。「文化八年辛未冬十二月上浣本町延寿丹。薬店において。玉顔の奇薬江戸乃水製法の間。筆を採る。」（『田舎芝居忠臣蔵』初編序文）

○十二月十三日、『田舎芝居忠臣蔵』初編の自跋によると文化八年の冬も酒による病にかかり金龍山下の別業で保養しながら『田舎芝居忠臣蔵』を執筆した模様。

○『四十八癖』初編も自序から判断すると十二月十三日の脱稿。

○烏亭焉馬編『江戸紫贔屓鉢巻』に狂文と狂歌一首。

○元木網追善狂歌集『もとのしづく』（梅園静盧編、文化八年序）に狂歌一首。

文化九年、一八一二、壬申、三十七歳

○正月、左記の合巻刊行。

『丹前風呂昔絵容』（六巻二冊、歌川国直画、鶴屋金助板）
『まとり兼みちひな物語』（六巻二冊、歌川国直画、森屋治兵衛板）
『鯆頓兵衛幻草紙』（六巻二冊、歌川国満画、鶴屋喜右衛門板）
『武者修行鋭勇伝』（五巻一冊、歌川国丸画、大坂屋秀八板）
『赤本再興　花咲ぢゝ』（三巻一冊、歌川国丸画、鶴屋金助板）
『赤本再興　桃太郎』（三巻一冊、歌川国丸画、鶴屋金助板）
＊『丹前風呂昔絵容』は『国書総目録』では『昔語丹前風呂』（見返題）で登録。『まとり兼みちひな物語』は『国書総目録』には『旧内裡鄙譚』（見返題）で登録。『まとり兼みちひな物語』は専修大学附属図書館向井文庫本題簽から。天保七年に松亭金水が補綴した『真鳥兼道雛物語』（六巻三冊、歌川貞房画、森屋治兵衛板）が刊行されている。
○正月、『忠臣蔵偏癡気論』（滑稽本、一巻一冊、歌川国直画、鶴屋金助板）刊行。
○正月、三馬店の景物本『江戸水福話』（合巻、三巻一冊、歌川国直画、鶴屋金助板）刊行。のちに河内屋嘉七より『江戸水幸噺』として再板された。
○この年、『四十八癖』初編（滑稽本、一巻一冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）刊行。自序文化八年十二月三日。
○十二月八日、瀬川路考（十二月二十九日没）と沢村訥子（十二月八日没）の追善本（八丁）、『両面蓮華道』を完成させる。「文化九年壬申十二月八日夜　子の上刻に筆を起して卯の下刻に稿成りぬ」（自序）。板元と刊行年月日は不明。
○また、同じく路考訥子の追善物の小冊子（十一丁、横小本）『訥子路考　極楽道中記』（一巻一冊、鶴屋喜右衛門・鶴屋金助板）を刊行した。なお『国書総目録』に「両道中記頭陀袋」と登録される本は『極楽道中記』の内題が採られただけで同一本である。
○六樹園飯盛（石川雅望）編の『万代狂歌集』（六巻四冊、角丸屋甚助板）に狂歌四首入集。
○この年、一子虎之助（のちの式亭小三馬）出生す（戯作者小伝）。
○江戸神田鎌倉河岸の酒屋豊島十右衛門（朝寝成丈）の編による『興佳帖』（写本一帖、『大東急記念文庫善本叢刊8　近世自筆稿本集』所収）に「酒徳頌」の狂文を寄せる。文化九年三月ごろと思われる（棚橋正博『式亭三馬』）。
○正月、『浮世風呂』三編（滑稽本、二巻二冊、歌川国直画、西村源六・石渡利助板）刊行。文化八年五月八日脱稿。
○『春窗秘辞』（大本一帖、淇澳堂主人板）の四月の部に戯文と狂歌をのせる。『春窓秘辞』の刊年は『狂歌書目集成』に拠る。
○当年刊行、門人学亭三子作の『難波風流鮫鞘男』（合巻、三巻三冊、歌川国丸画、西宮新六板）に序を寄せ、かつ最終丁に狂歌一首を収める。
○当年刊行、門人徳亭三孝作の『書習廓文章』（合巻、五巻一冊、歌川国次画、西宮新六板）に序文と狂歌二首を収める。
○当年刊行、門人益亭三友作の合巻『髭大尽廓之全盛』（五巻二冊、歌川国次画、西宮新六板）に狂歌三首を収める。
○当年刊行、門人春亭三暁作の合巻『雷神丸剣電』（三巻一冊、

小川美丸画、西宮新六板）に序文と狂歌一首を収める。
○瀬川路考追善浮世絵（歌川豊国画、板元未詳、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号114-0032）に「瀬川路考をいたみて」の賛。
○沢村宗十郎追善浮世絵（歌川豊国画、板元未詳（山形に十）、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号114-0051）に訃子をいたむ賛。
○沢村宗十郎追善浮世絵（歌川豊国画、鶴屋金助板、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号114-0055）に訃子をいたむ狂歌賛一首。

文化十年、一八一三、癸酉、三十八歳

○正月、左記の合巻刊行。
『二枚続吾嬬錦絵』（七巻一冊、歌川国貞画、鶴屋喜右衛門板）
『ひたか川清姫』（六巻二冊、歌川国直画、鶴屋喜右衛門板）
『巳己巳歌字尽』（六巻二冊、歌川国直画、西宮新六板）
『お花半七　吾妻花歌妓気質』（六巻二冊、歌川国貞・歌川国直画、森屋治兵衛板）
＊『ひたか川清姫』は『国書総目録』では『日高川清姫物語』（内題）で登録。国文学研究資料館本や専修大学向井文庫の外題が『ひたか川清姫』。『お花半七　吾妻花歌妓気質』は（大坂）加島屋清助による後刷本あり。
○当年、左記の滑稽本刊行。
『銘酒　一盃綺言』（一巻一冊、歌川豊国画、西宮平兵衛・津村三郎兵衛・石渡利助板）
『四十八癖』二編（一巻一冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）。文化九年三月上浣序。
『田舎芝居忠臣蔵』初編（二巻二冊、鶴屋金助板）
『柳髪新話　浮世床』初編（三巻三冊、鶴屋金助・柏屋清兵衛板）。文化八年皐月十日序。
『浮世風呂』四編（三巻三冊、歌川国直画、西村源六・石渡利助板）
『人間万事虚誕計』（一巻一冊、歌川国直画、伊賀屋勘右衛門・関口平右衛門板）。文化九年五月序。
○正月刊、『仮名手本　蔵意抄』（一巻一冊、万寿亭正二作、歌川豊国画、西村源六板）に補綴。
○夏（序）の芍薬亭長根編『狂歌関東百題集』（蔦屋重三郎板）に挿絵六枚描く。
○文化三年初板の滑稽本『酩酊気質』が西宮平兵衛・津村三郎兵衛・石渡利助合板で再板される。
○『江戸名所画本』（十返舎一九編・画、二冊）に狂歌一首。
○門人古今亭三鳥作の『昔語本田始』（合巻、三巻一冊、歌川国直画、鶴屋喜右衛門板）最終丁古今亭の書斎の壁に三馬の狂歌「世わたりも戯作の道もよくはりてよくばりつくす古今亭　式亭酔中書」が掛けてある。

文化十一年、一八一四、甲戌、三十九歳

○正月、左記の合巻刊行。
『両個助六』（六巻二冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）
『交無癖安売』（三巻一冊、歌川国直画、鶴屋金助板）。文化十年

十一月序。

『和合神所縁赤縄』（五巻一冊、歌川美丸画、森屋治兵衛板）

『当世織纃紛八丈』（六巻二冊、歌川国直画、西宮新六板）

『万字や玉菊　燈籠始』（六巻二冊、歌川国貞画、鶴屋喜右衛門板）

『浮世夢助魂胆枕』（三巻一冊、歌川国直画、鶴屋金助板）

＊『両個助六』は『国書総目録』では『名揚巻両個助六』（見返し題）で登録。

○当年、左記の滑稽本刊行。

『田舎芝居忠臣蔵』二編（二巻二冊、鶴屋金助）。文化十年五月上浣脱稿。

『古今百馬鹿』（二巻一冊、歌川国直画、蔦屋重三郎・越前屋吉兵衛・山崎平八板）。文化九年中浣脱稿。

『人心覗からくり』（二巻二冊、歌川国直画、西村与八。山崎平八・天満喜平・萩原源助（加賀屋源助）・鶴鶉長治（為永春水）板）。文化九年九月中浣脱稿。

「文化九年中浣、江戸前取立のぴん〳〵する隠士、小田原町の妾宅に二日滞留の間筆を採る」（自序）

『浮世床』二編（二巻二冊、歌川国直画、柏屋平蔵・鶴屋金助板）。文化九年十二月中浣序。

『素人狂言紋切形』初編（二巻二冊、歌川国直画、蔦屋重三郎・越前屋吉兵衛・山崎平八板）。文化九年四月下浣序。二編（匠亭三七序）は刊年未詳。

○九月『巣鴨名産　菊の栞』（立川焉馬編、歌川美丸画、森屋治兵衛板）に狂歌八首を寄せる。

○『一筆啓上』（往来物、中本一冊、英平吉板）刊行。

○『新修日本小説年表』に本年刊として収録される『衣川怪談三俣小説』累模様楓襠』（六冊、歌川国直画）、『其浦島七世孫助』（六冊、歌川国直画）は未刊と思われる。

○五月十七日、本所五ツ目天恩山羅漢寺で開かれた焉馬の年賀の莚に参加する。柏屋で開かれる予定が急遽変更となり舟で移動する。帰路は真顔の雇った舟に便乗して一石橋から上がる。「往く時は人〳〵とゝもにむかへふねに乗て戯れによめる歌　柏屋と思ひの外にはかに羅漢寺なるよし聞て　羅漢寺へゆくもかまわ（鎌と輪の絵柄）ぬ談洲楼焉馬の会は舟だけそんじや　三馬」と狂歌を詠む（『落話会刷画帖』）。

○浮世絵「寄三津再十二支」（二枚続一組、歌川国貞画、西宮新六板、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号101-7086・7085）に「かけ合娘ほめことば」の賛。本年三月堺町中村座坂東是業三十三回忌追善の坂東三津五郎興行に関するもの。

文化十二年、一八一五、乙亥、四十歳

○正月、左記の合巻刊行。

『女房気質異赤縄』（五巻一冊、歌川国直画、西宮新六板）文化十一年八月下浣脱稿。

『三勝半七　女劇時世粧』（六巻三冊、歌川国貞画、西宮新六板）

『日暮林清塩焼等太　異魔苦阿露雑談』（六巻二冊、歌川国直画、

森屋治兵衛板）文化十一年七月晦日脱稿。

○八月、享保末期から文化十一年十一月までの役割番付を『江戸三芝居紋番付』（十六冊、国立国会図書館所蔵）と名づけて序を付す。

○八月末ごろ、落咄の会の刷物を集めて貼り込み帳『落話会刷画帖』（裏表紙題簽「落話中興来由」）の作成開始（文化十四年十月五日朝寝坊夢羅久の落語会ビラまで収録）。

○『俳諧歌兄弟百首』（鹿津部真顔編、三巻三冊、西宮弥兵衛板）に狂歌二十六首。

○門人古今亭三鳥作の『本町育戯作清書』（合巻、三巻一冊、歌川美丸画、西宮新六板）に序文を寄せる。

○おなじく古今亭三鳥作の『江戸桜全盛色里』（合巻、六巻二冊、歌川国直画、西宮新六板）の最終丁に肖像を載せる。口絵の賛に狂歌一首「傾城にまことなしとは傾城にうそいふ客やいひはじめけん　三馬」を収める。

○おなじく古今亭三鳥作の合巻『源平外伝　源太梅ケ枝物語』（合巻、六巻一冊、歌川国直画、西宮新六板）の口絵に狂歌一首「いにしへを今みよしの丶花の影うつれは川を山となしけり」を収める。

○八月、故桜川杜芳の黄表紙仕立ての噺本『繋升三升繋』の稿本を入手し桜川慈悲成に極書を頼む。『繋升三升繋』は未刊に終わった模様。式亭三馬旧蔵本の複製が稀書複製会第一期に収録。「文化十二年乙亥秋八月下浣補表装収蔵　式亭主人」と識語。翌文化十三年春に四方歌垣（鹿津部）真顔に跋文を頼んでおり、真顔の跋を備える。

文化十三年、一八一六、丙子、四十一歳

○正月、左記の合巻刊行。

『女房かたぎ後編　善悪両面　合鏡女風俗』（五巻二冊、歌川国直画、西宮新六板）

『幡随蝶兵衛　払化調兵衛　任侠中男鑑』（七巻三冊、歌川国貞画、鶴屋金助板）

○正月、『俳諧歌觴』（二巻二冊、西宮弥兵衛・万屋太治右衛門板）刊行。

○『新修日本小説年表』に収録の当年刊『梅幸茶婀娜染色』（合巻、式亭三馬作、歌川国貞画）が刊行されたとするが、概本は未見。おそらく未刊。

文化十四年、一八一七、丁丑、四十二歳

○正月、左記の合巻刊行。

『恋窪昔語　契情畸人伝』（七巻二冊、柳川重信画、森屋治兵衛板）

『お妻八郎兵衛　お傘六郎兵衛　五色潮来艶合奏』（六巻三冊、歌川国貞画、鶴屋喜右衛門板）

『昔帯の今織の市松形　艶容歌妓結』（七巻三冊、歌川国貞画、西宮新六板）

○正月、左記の滑稽本を刊行

『四十八癖』三編（一巻一冊、柳川重信画、鶴屋金助板）。文化十三年丙子の八月中浣序。文化十三年丙子臘月脱稿。

『大千世界楽屋探』（三巻三冊、歌川豊国画、鶴屋金助板）。

○『大全一筆啓上』（往来物、半紙本一冊、英平吉板）刊行。文化七年四月自序。

○『新吉原細見』春の部に序文。
○『北斎漫画』七編に序文。

文化十五／文政元年、四月二十二日改元、一八一八、戊寅、四十三歳

○正月、『四十八癖』四編（滑稽本、一巻一冊、歌川美丸画、鶴屋金助板）刊行。
○『新吉原細見』春の部に序文。
○三月、伊勢古市の牛車楼のための景物本『伊勢名物通神風』（一巻一冊、歌川国直画、備前屋小三郎板）を刊行した。備前屋小三郎と三馬との仲立ちには柳斎が関係していたようである。また、『伊勢名物通神風』の巻末広告に「式亭三馬先生狂文、四方真顔先生狂歌」の「新造（あらたに）桜迺間御披露之報条」という報条文が「新楼桜迺間大踊之図」（柳々居辰斎先生画）と彩色二枚続で作られたとする。前者は石水博物館が所蔵の報條文「あらたかたとのの造りたることを国々につげたる詞　式亭三馬戯述」（文化十五年三月備前屋小三郎板）と思われる。狂歌堂（鹿津部）真顔の狂歌は「ひらくより花見車の立つくし桜の間毎透やなからむ」。「新楼桜迺間大踊之図」は岩切友里子「辰斎筆「住吉反橋図」に関連して、辰斎・真顔・柳斎の交遊」（『北斎研究』31号・平成14・5）末尾図録に紹介。
○六月刊、錦糸亭綾機債主・花咲庵米守校合『遊里三景』狂歌よみ人名寄細見記』（魚屋北渓画）に序文と狂歌五首。『狂歌よみ人名寄細見記』は三馬序の年次を文政四年に変更した文政六年版も存在。
○五代目市川団十郎追善狂歌狂文集『以代美満寿』（烏亭焉馬編、本年序）に狂文と狂歌一首。

文政二年、一八一九、己卯、四十四歳

○『新修日本小説年表』に本年刊として収録される『万福長者出世蔵』（歌川国貞画、三冊）は未刊に終わったと思われる。
○閏四月二十日から八月二十二日の間に、上京した本居内遠と面会したようである（「内遠略年譜考」、『国学者伝記集成』による）。
○これから没年までの間に『浮世絵類考』に加筆したか。
○当年刊行、門人福亭三笑作の『累辞絹川堤』（合巻、三巻一冊、勝川春亭画、鶴屋喜右衛門板）の口絵に狂歌一首「傾城にまことなしとはけいせいにうそいふ客やいひ初めけむ」を収める。加えて、最終丁に春亭画の万歳の絵に画賛「うらゝかにまつたちそむるあさかすみこれからそろ〳〵まんざいの春」。

文政三年、一八二〇、庚辰、四十五歳

○正月、『松竹梅女水滸伝』前編（合巻、六巻三冊、歌川国貞画、山本平吉板）刊行。
○寛政七年刊の黄表紙『碁太平記白石噺』の改板再刻本（五巻二冊、歌川豊国画、西宮新六板）を刊行。

○『新吉原細見』秋の部に序する。
○十一月、『浮世風呂』前編、上総屋利兵衛・丹後屋伊兵衛より再刻される。翌春「浮世風呂」五編開板の広告が載るが刊行されず。
○諌鼓堂尾佐丸編『戯場百人一首』に序文。
○当年刊行、古今亭三鳥作の『四季物語廓寄生』（合巻、六巻二冊、歌川美丸画、西宮新六板）口絵に狂歌一首「わけのほる花のよしのも吉原も山口よりそ咲きはしめける」を収める。
○この年以外の西宮新六の広告も該当するが、文政二年刊行の合巻『ばけもの世帯気質』（二巻一冊、晋米斎玉粒作、歌川美丸画、西宮新六板）の広告などに「松会読本 竹本正本 引書語三枡大夫」（式亭三馬作、歌川国貞画、西宮新六板）が見える。三馬によっては刊行されず、同名の書（『引書語三姓太夫』初編～四編、嘉永二～五年）を刊行している楽亭西馬に趣向あるいは草稿が引き継がれたか。

文政四年、一八二一、辛巳、四十六歳

○正月、『松竹梅女水滸伝』後編（合巻、七巻三冊、歌川国貞画、山本平吉板）刊行。
○正月、『茶番早合点』（滑稽本、一巻一冊、歌川国貞画、西宮新六板）刊行。文政三年十一月稿成。

文政五年、一八二二、壬午、四十七歳

○閏正月六日死去。
○深川雲光院寺中、長源寺に埋葬される。戒名は歓誉喜楽奏天信士。関東大震災後に、現在の墓所の東京都目黒区碑文谷一丁目の正泉寺に改葬。

文政六年、一八二二、癸未

○正月に『客者評判記』再板。
○『狂歌書目集成』によると石川雅望撰の狂歌絵本『狂歌笛竹集』に京伝、種彦らとともに画いたようだが該本は不詳。文政二年五月二十九日に烏亭焉馬より六樹園にあてた『狂歌笛竹集』の画に関する書簡（中村幸彦氏旧蔵）が存在する（粕谷宏紀『石川雅望研究』）。
○古今亭三鳥『花競操日記』（合巻、六巻二冊、小川美丸画、森屋治兵衛板）は三馬校合。下巻一丁表に式亭三馬と古今亭三鳥の画像が並び、狂歌一首「世わたりも戯作のみちもよくばりてよくばりつくは古今亭あそ」。

文政七年、一八二四、甲申

○『茶番早合点』二編（滑稽本、二巻二冊、歌川国直画、西宮新六板）刊行。
○『坂東太郎強盗譚』初編（合巻、五巻二冊、歌川豊国画、西宮新六板）刊行。

文政八年、一八二五、乙酉

○『坂東太郎強盗譚』中・下編（合巻、各五巻二冊、歌川豊国画、西宮新六板）刊行。

○『梅精奇談（ばいせいきだん）　魁草紙（さきがけそうし）』（読本、五巻五冊、歌川国安画、河内屋太助・鶴屋喜右衛門板）刊行。

文政九年、一八二六、丙戌

○南杣笑楚満人（為永春水）校正『稽古三味線（けいこしゃみせん）』（滑稽本、三巻三冊、歌川国直画、西村与八・大坂屋茂吉板）刊行。

○三馬店判じ絵刷物「蝶花形（ちょうはながた）」「花勝実（はなかつみ）」を三馬の署名で発行。

文政十年、一八二七、丁亥

○正月、『雲龍九郎偸盗伝（うんりゅうくろうちゅうとうでん）』初編（合巻、五巻二冊、歌川国貞画、西宮新六板）刊行。

文政十一年、一八二八、戊子

○正月、『雲龍九郎偸盗伝（うんりゅうくろうちゅうとうでん）』二編（合巻、五巻二冊、歌川国貞画、西宮新六板）刊行。刊年推定は専修大学向井文庫本の蔵版目録。

文政十二年、一八二九、己丑

○正月、『雲龍九郎偸盗伝（うんりゅうくろうちゅうとうでん）』三編・四編（合巻、各五巻二冊、北尾重政画、西宮新六板）刊行。

○『雲龍九郎偸盗伝』の板木、三月二十一日の大火により焼失。

文政十三／天保元年、十二月十日改元、一八三〇、庚寅

○三馬の文化三年の原稿をもとにした洒落本『潮来婦志（いたこぶし）』（一冊）、『潮来婦志』後編（一冊）が刊行（刊年推定は『洒落本大成』28解題）。

弘化三年、一八四六、丙午

○『雷太郎強悪物語』の改題改刻版『雷太郎姦勇物語（いなずちたろうかんゆうものがたり）』（十巻二冊、歌川豊国画、森屋治兵衛板）刊行。

嘉永四年、一八五一、辛亥

○息子小三馬、三馬の狂文集『式亭狂文集一名戯想文』（三巻三冊、国立国会図書館蔵）の稿本を作成する。

成立年不明のもの

○馬琴への書簡一通。大坂の文金堂からの手紙を廻送するという内容（国立国会図書館編『貴重書解題 第十二巻書簡の部第二』）。

○短冊一つ。狂歌一首。詞書、「化物百首の中に」。「闇の夜に提灯小僧あしもとのあかるいうちにきえてなくなれ」（国立国会図書館編『貴重書解題 第五巻名家短冊の部』）。

追加

享和三／文化元年、二月十一日改元、一八〇四、甲子、二十九歳

○尾上栄三郎・沢村源之助を描いた浮世絵（歌川豊国画、板元未詳、早稲田大学演劇博物館所蔵作品番号001-1076）に賛。

【付記】不学不勉強につき、本年表には不足や間違いもあると思われる。ご批正をうけることも年譜稿公開の目的である。資料漏れや誤りを見つけた方は、お手を煩わせますが yoshimaru@human.mie-u.ac.jp までお知らせいただきたい。

本稿は平成二四-二六年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金（若手研究（B））、課題番号二四七二〇〇九二）による成果の一部である。

［よしまる　かつや　本学教員］